

# 描くひと 谷口ジロー展

## 基本情報

### 期間

2022年6月2日[木]–8月29日[月]

### 開催日数

77日間

### 会場

京都国際マンガミュージアム 2階  
ギャラリー 1・2・3

### 主催

京都精華大学国際マンガ研究センター/  
京都国際マンガミュージアム

### 特別協力

株式会社ふらり/一般財団法人パピエ

### 企画協力

公益財団法人せたがや文化財団  
世田谷文学館

### 制作協力

北九州市漫画ミュージアム/  
横手市増田まんが美術館

### ポスター・チラシデザイン

日下潤一(ビーグラフィックス)/  
赤波江春奈(ビーグラフィックス)

### テキスト執筆

表智之(北九州市漫画ミュージアム)/  
伊藤遊(IMRC)

### 英訳

キャシー・セル

### パネルデザイン

上岡杏子

### 空間構成

伊藤遊

### 担当

伊藤遊/  
大谷景子(京都国際マンガミュージアム)/  
倉持佳代子(京都国際マンガミュージアム)

近年、国内外問わず、その評価をますます高めているマンガ家・谷口ジロー(1947–2017年)の作品原画約300点を紹介する展覧会。●世田谷文学館で開催された同名展(2021年10月16日–2022年2月27日)の巡回として企画されたが、世田谷展での出展作品はそのままに、構成などを大幅に変更している。●最大の変更は、作品を、制作された時系列に並べ直したことである。そうすることで、作品同士の同時代的な共通点や、作風の変化を実感できるようにした。再構成に伴い、解説テキストもすべてリライトしている。

●また、原画で鑑賞してこそ発見の多い谷口作品をより理解してもらうため、マンガの原画の鑑賞方法そのものを解説するコーナーを付け加えた。同コーナーは、横手市増田まんが美術館などで開催された「ゲンガノミカタ」展の「谷口ジローヴァージョン」として作成した。横手展などでは、同館所蔵の原画を実例に、マンガ原画の鑑賞ポイントが解説されたが、ここでは、「ゲンガノミカタ」展のテキストはそのままに、事例の原画を、対応する谷口作品に入れ替え、その解説を加える形で展示した。また、関連イベントとして、谷口作品の作画を支えた元アシスタントをゲストに、制作の裏側をより詳細に語ってもらうイベントを開催することで、より深い「ゲンガノミカタ」を提示することができた。●本展は、2023年3月18日[土]–5月14日[日]、展示の再構成を共同で行った北九州市漫画ミュージアムにも巡回した。

[文責=伊藤遊]

## 展示構成

- ・【第1章 1970年代】
- ・【第2章 1980年代前半】
- ・【第3章 1980年代後半】
- ・【第4章 1990年代】
- ・【第5章 2000年代】
- ・【第6章 2010年代】
- ・【ゲンガノミカタ 谷口ジローの場合】
  - 観方の1 原画と印刷、どう違う？
  - 観方の2 マンガの「原稿用紙」とは？
  - 観方の3 描線から感じるマンガ家の息吹
  - 観方の4 原画の枠外には「マンガのゲンガ」がある
  - 観方の5 手仕事が生み出す様々な効果
  - 観方の6 スクリーントーンは「貼るだけ」じゃない！
  - 観方の7 ホワイトでつけるアクセント
  - 観方の8 この「切り貼り」は何のため？
  - 観方の9 なぜか裏側にも絵が？
  - 観方の10 うつろいゆく原画たち

## 報道・関連評論

- ・「人生の滋味を描き再評価 京都国際マンガミュージアムで谷口ジロー展」  
『京都新聞』2022年6月29日
- ・イトウユウ「〈考現学マンガ家〉としての谷口ジロー——『歩くひと』を読む」  
『オリジナリ』11、ビーグラフィックス、2022年6月



会場風景。  
(写真撮影=  
ディレクターズ・ユニブ)



